

# design



## コンクリートに絵柄描く

## サムリ・ナーマンカさん

(デザイナー)

「自分はデザイナーであると同時に、技術者としての意識も強い。開発した技術がツールとして広がるのはうれしい」

物理学専攻という珍しい経歴を持ち、素材や加工技術から開発するユニークなアプローチで表現の幅を広げてきた。代表作はコンクリート表面に特殊技術で写真や図柄などを描く「グラフィックコンクリート」。古い工場を改装する際にコンクリートの研究に着手。印刷会社などと協力しながら、4年かけて実用にこぎつけた。

ヘルシンキの住宅地では、開発の進む地域に過去の情景を残すため、古い生活用品などの写真をデザインしたコンクリートを街の各所に配置した。この技術は外販もしており、欧米で利用が増えている。現在は土に返る天然繊維素材とその成形技術を開発中で、「来年にも自動車の内装部材などとして製品化できる見通し」という。

「デザインで目指しているのは、シンプルで機能的、そして主張しすぎないこと。プロダクトも空間に置かれるツール。デザインがその場所に溶け込むことが重要だ」

鍋やいすなど家庭用品のデザインも手掛けている。欧州の数々のデザイン賞で1位を獲得した「クラッシュ・チェア」は座面と脚部の接続部分や、チェアを横につないで使用する際の連結部分の、ねじや金具など留め金が一切見えない構造。ステンレス製の鍋は、シンプルでありながら、吹きこぼれしない工夫を盛り込んだ。「小さなモノからランドスケープまで、多様性に富んだスケールのデザインを手掛けることは刺激になる」と意欲を燃やす。

Samuli Naamanka 69年フィンランド生まれ。物理学やグラフィックデザイン、インテリアや家具のデザインなどを学び、96年に個人事務所を設立。デザインの領域

は多岐に渡り、08年2月にはストックホルム家具見本市で、「ウニ・チェア」がノルディスカ・デザイン賞受賞。国内初の作品展を11月3日まで東京・新宿で開催した。